

NIKE社長

中村 道一氏

2023 京滋の有力企業22 (30・31日連載)

## スピーディーな対応



「2023年の方針は。」

「全社挙げて活動量を増やしている。できるだけ国内外の顧客先へ足を運び、スピーディーな顧客ニーズへの対応から新しいモノを生み出し、事業速度も速めていきたい。活動量の増加でいろいろと引き合いをもらい、受注量も伸びているほか、4月以降の案件も増えている。ただ、今も続いている部品の不足と

価格高騰が懸念材料だ」

— 具体的には。

「電気自動車（EV）やバッテリーなどに関連する自動化機器の需要が増えている。日用品関連も多い。このほか、病院で使う検査機器の自動化や、店舗と倉庫などのバックヤード間の搬送自動化といった需要も人手不足などを背景に高まっている。フレキシブルな製造ラインの構築で

## 新しいモノ、生み出す

選択肢となる無人搬送車（AGV）のアプリケーション開発も推進している。特注対応で既に実績がある搬送中に単作業を行ったり、荷物受け渡しを自動化したりするAGV上部向けのアプリケーションを標準化する取り組みで、23年度中に形にしたい」

— 人材育成も進めます。

「Z世代、デジタルネイティブに期待したい。製造業は従来、下積みが無いと活躍できないとの固定観念があった。だが当たり前とされた事柄に疑問を持ち、プロセス改善アイデアを出すなど、デジタルを用いた活躍が期待できる。顧客感動の実現に向けた意識を醸成しつつ、新しい発想を生かし、チームワークで課題解決に取り組んでいく。調達のリスクヘッジ、海外の販売体制強化にも取り組む」